ディスカッション概要





西荻窪地域　第６回
（仮称）デザイン会議　全体会

■まちづくり用地の利活用部会

まちづくり用地の利活用部会では、補助132号線事業に伴い取得された道路用地を、地域の暮らしやまちの魅力向上にどのように活かしていけるかをテーマに活動しています。道路が完成するまでの長い期間、取得された用地が単に囲われた空地のままとなるのではなく、地域にとって価値のある場所として活用できないかという視点から検討を進めています。
部会では、大きく「雨庭チーム」と「社会実験チーム」の二つを中心に活動しています。雨庭チームでは、善福寺川沿いの道路用地の一角を活用し、雨庭づくりに取り組んでいます。雨庭は、雨水を一時的に受け止めて地中へ浸透させることで、都市型水害の軽減や緑の創出につなげる取組です。土壌改良や浸透実験を重ねながら整備を進め、現在は植栽やしがらの設置も行い、少しずつ地域に根付く空間づくりを進めています。今後は植物の成長や利用状況を見守りながら、継続的な維持管理や改良を行っていく予定です。
社会実験チームでは、道路用地の活用方法について実際に試しながら考えていく活動を進めています。道路用地にベンチやテーブルを設置した場合の利用状況や、地域イベントと連携した活用の可能性などについて検討を重ねています。急に結論を出すのではなく、小さな実験を重ね、その結果を地域の皆さんと共有し、改善点を整理しながら次の取組につなげていくことを大切にしています。
部会では、実践を通じて見えてきた課題も共有しています。道路用地の活用には、安全面や維持管理、地域との合意形成など様々な課題があり、実際に取り組んでみることで初めて分かることも多くあります。こうした経験を積み重ねながら、西荻らしい道路空間の活用方法を模索しています。

■西荻ならではの人中心の道づくり部会

西荻ならではの人中心の道づくり部会では、自動車中心ではなく、人を中心とした道路空間のあり方について検討しています。道路を単なる移動のための空間としてではなく、人が安心して歩き、交流し、滞在できる空間として捉え直し、西荻窪らしい道づくりについて考えています。
活動にあたっては、自転車、公共交通、移動制約者など、それぞれ異なる視点から道路空間を考えるために複数のチームに分かれて検討を進めています。その中で部会が着目している考え方の一つが、フランスで広がっている「ビルアペゼ（おだやかなまち）」です。車を完全に排除するのではなく、速度を抑えながら歩行者・自転車・公共交通が共存できる空間をつくるという考え方であり、西荻窪でも参考になる事例として学習を行っています。
部会では、車両速度を抑えた道路空間の社会実験や、自転車が利用しやすい環境づくりについて検討しています。また、自転車チームでは、自転車利用者の視点から危険箇所や駐輪場の課題などを調査し、より使いやすい環境づくりを考えています。さらに、公共交通チームでは、交通不便地域の実態や将来の移動手段の可能性について調査を進めています。
移動制約者チームでは、高齢者や障害のある方など、移動に制約を抱える方々の視点から道路空間を見直しています。実際に現地を歩きながら課題を確認したり、当事者の声を聞いたりしながら、誰もが安心して移動できるまちについて考えています。
部会全体としては、「人にやさしい道路空間とは何か」を共通テーマとしながら、西荻窪らしい暮らしを支える道のあり方について提案づくりを進めています。

ディスカッション概要

■多様な世代や立場の人の居場所づくり部会

居場所づくり部会では、多様な世代や立場の人が地域の中でつながり、安心して過ごせる居場所について考えています。
活動を始める中で、「人が集まれる場所が少ない」「地域でどのような活動が行われているのか分からない」「情報にたどり着きにくい」といった声がある一方で、実際には町会や地域団体、公共施設など、様々な居場所や活動が存在していることも分かってきました。そこで部会では、まず地域の活動や施設、団体等の情報を整理し、誰でもアクセスしやすい形で共有することから活動を始めています。また、今後はアンケートや聞き取り調査を通じて、地域の皆さんがどのような居場所を求めているのか、どのような課題を感じているのかを把握しようとしています。
部会では、「居場所」とは特定の施設だけを指すものではなく、人と人が出会い、交流し、つながることのできる場そのものだと考えています。地域にある様々な資源や活動を活かしながら、多様な人が参加できる環境づくりを目指しています。

■西荻窪らしい商店街を守るルールづくり部会

ルールづくり部会では、西荻窪らしい街並みや商店街の魅力を将来世代へ引き継ぐために、どのようなルールや仕組みが必要かについて検討しています。
部会では、下高井戸や沼袋など、実際に地域のルールづくりや地区計画に取り組んでいる地域を調査しながら学びを深めています。道路整備などによってまちが変化する中でも、西荻窪らしさを維持していくためには何が必要なのかを考えることが活動の中心です。
例えば、商店街の連続性や街並みの景観、緑や地域資源をどのように守り育てていくかといった視点について学びながら、西荻窪らしさを言葉やルールとして表現する方法を模索しています。
部会では、行政だけでなく、地域の住民や商店街、地権者など、多くの関係者が一緒に考えていくことが重要と考えており、多様な意見を取り入れながら検討を進めています。

■全体統括（グラフィックレコーディングの結果より）

ディスカッションでは、「将来世代につなげたい道の空間」をテーマに、西荻窪の魅力や将来に残したいものについて幅広く意見交換を行いました。
参加者からは、西荻窪の自由な空気感や人の多様性、歩いていて発見のあるまちの楽しさなどが西荻窪らしさとして挙げられました。また、子どもたちが地域の中で過ごせる場所や、人と人とのつながりを支える空間の必要性も共有されました。
道路空間については、高齢者や障害のある方、子どもなど様々な立場から道路を見つめることの重要性が指摘されました。誰にとっても使いやすい道とは何かを考える中で、必ずしも一つの正解があるわけではなく、多様な視点を理解しながら検討する必要があるという意見が出されました。
また、緑や余白のある空間を次世代へ残したいという声も多く聞かれました。雨庭のような取組を広げていくことや、緑を維持するための仕組みやルールづくりの必要性についても議論されました。
さらに、今回の全体会では意見投稿ツール「Slido」を活用し、発言者以外の参加者もリアルタイムで意見や質問を投稿できる仕組みを導入しました。これにより、多くの参加者が気軽に議論へ参加し、多様な視点を可視化することができました。
最後に、活動を通じて顔見知りが増え、人とのつながりが生まれていることも大きな成果として共有されました。多様な人が関わりながら、西荻窪の未来について考えていくことの大切さが改めて確認されました。